

空隙感のあるタオル製品の開発

— タオル製品デザイン企画手法開発研究 (R3) —

愛媛県産業技術研究所 繊維産業技術センター 主任研究員 田中 祐子*

猛暑対策をコンセプトに涼感などを向上させる「空間」に着目し、空隙感のある模紗織生地を用いたタオルマフラーやショールの試作開発を行いました。

模紗織生地に関し、組織の大きさと素材の違いによる通気性の変化を計測するため、blankであるガーゼ織生地と空隙の大きさが異なる5種類の模紗織組織(図1)を用いた生地を表1の製織条件で試作しました。

これらの中から、通気性と外観等の良い2種類の模紗織組織(模紗織②と④)を選定し、それぞれの組織に対して、ラミーとペーパー、タオル製品に用いることの多い綿、機能性繊維である吸水速乾性素材(ポリエステル70%、綿30%)の4種類の素材をよこ糸に使用し、合計8種類のタオルマフラーA~H(図2)を作製して、感性評価試験を実施しました。タオルマフラーの使用時(生地のやわらかさ、軽やかさ、巻きやすさ、蒸れ感)と洗濯後(乾燥性、しわの状態、型崩れ)について、まとめたレーダーチャートを図3に示します。

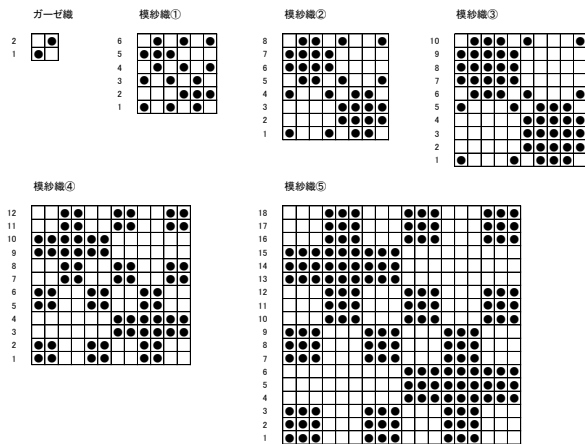


図1 生地の試作に用いた組織図

表1 製織条件

織機	プロジェクティル織機 (スルザー製 P7100)
箆	48 羽/3.79cm
よこ糸密度	60 本/2.54cm
パイル糸	綿糸 60/2 ^S
地たて糸	綿糸 60/2 ^S
よこ糸	A、E: ラミー糸 麻番手 80/1 ^S B、F: ペーパー糸 毛番手 80/1 ^S C、G: 綿糸 20/1 ^S D、H: 吸水速乾性糸 20/1 ^S
箆引き込み	PG PG



図2 感性評価試験に用いたタオルマフラー

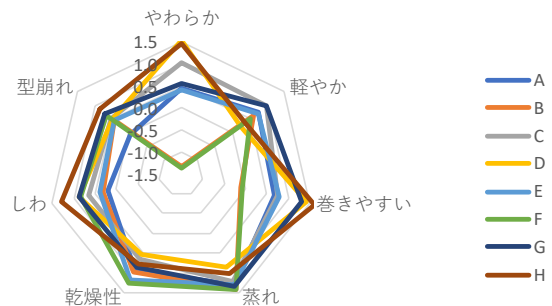


図3 使用感調査結果

糸と糸の間に隙間が空く模紗織生地について検討した結果、快適な着用感がある試作品の開発ができました。

本研究は、県単研究「タオル製品デザイン企画手法開発研究」により実施しました。

* 現 窯業技術センター